

名勝無鄰菴にて
「明治のパトロン～現在にみる日本の文化財の保存と活用」
を開催します。



明治から現代、そして将来につなぐ日本の財産

この冬 1/20-2/28 に無鄰菴の母屋 1 階に「国宝 源氏物語関屋濡標図屏風（静嘉堂文庫美術館）」
高精細複製がきます！DNP 京都太秦文化遺産ギャラリーのご協力のもと実現。この屏風が現在存
続しているのも、岩崎家という近代のパトロンがあったから。明治から現代にかけて、日本の文
化財はいくつもの危機を乗り越え、現在にあります。このことを、屏風をきっかけに紐解いてみ
ましょう。国の財産を保存し、活用し、未来に繋いで行くために。文化財保護の取り組みの一環
として、ぜひご取材ください！

開催日：2020年2月24日(月・祝)

時 間：14:00～16:00

会 場：無鄰菴 母屋 2 階

料 金：3,500 円

定 員：20 名(要予約)

講 師：重岡 伸泰 無鄰菴学芸員

【お問合せ】無鄰菴窓口もしくはお電話、ホームページにて承っております。

T E L：075-771-3909 または <https://murin-an.jp/events/>

受 付 時 間 9 時 00 分～17 時 00 分

【無鄰菴の理念】

庭園は、人が集いアクティブに利活用することで真の姿を見せてくれると私たちは信じています。庭は使ってこそ価値が生まれます。皆様のご参加が、庭園文化を育みます。

【無鄰菴とは】

無鄰菴は、明治27（1894）年～29（1896）年に造営された明治・大正時代の政治家山縣有朋の別荘である。無鄰菴は庭園と母屋・洋館・茶室の3つの建物によって構成されており、庭園は施主山縣有朋の指示に基づいて、七代目小川治兵衛により作庭された自然で開放的な空間の庭園として高い評価を受けている。母屋は簡素な木造2階建ての建物で、洋館は新家孝正の設計による煉瓦造り2階建ての建物。茶室は古田織部好みの代表的茶室である、藪内流燕庵を模して作られた。

昭和26年には、近代の名園として国の名勝に指定されている。



【植彌加藤造園株式会社（指定管理者）について】

創業嘉永元年(1848年)、初代加藤吉兵衛が大本山南禅寺の御用庭師を務めて以来、洛東鹿ヶ谷にて代々造園業を営み、史跡名勝の指定を受けている文化財庭園の維持管理、寺院庭園・別荘庭園・公共庭園の伝統技法による整備、管理とともに、各種住宅庭園の施工管理を手掛ける。

無鄰菴においては、過去8年間（平成21年度を除く）、庭園管理を継続しており、平成28年4月1日からは指定管理者として全体の管理運営を担っている。